

# 小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主 催 奈良歴史遺産市民ネットワーク

事務局 〒630-8306 奈良市紀寺町883-4

Tel・fax 0742-23-3934 小宮みち江

**講 師** 小笠原好彦氏 滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会代表委員

**講座会場** 奈良県教育会館 開講13時30分(開場13時) (奈良県文化会館西隣 近鉄奈良駅より徒歩5分)

**参加資料代** 500円



## 2月13日(火) 《鑑真が東征する以前の仏教界と授戒》

天平勝宝6年(745)唐から鑑真が渡来し、東大寺に戒壇を設け、多くの僧が授戒しました。しかし、鑑真が渡来して初めて授戒が開始したのではないのです。実は、それ以前から授戒はおこなわれていました。その実態を検討してみます。また、興福寺の僧栄叡(ようえい)と普照(ふしょう)が唐から伝戒師の招請に奔走した背景を少し考えてみることにします。

## 3月12日(火) 《平城京の官人らと喪地》

平城京は、唐の長安城と同じく、京内に官人層の墓を営むことを禁じていました。元明天皇・元正天皇陵、聖武天皇・光明皇后陵は、いずれも京外に陵墓を設けています。これまで見つかっている墓誌などをもとに、奈良時代に平城京に居住した官人たちの墓の実態と、藤原不比等を埋葬した墓を少し考えてみます。

## 4月9日(火) 《古代の食封・封戸とその運用》

日本の古代国家は皇族や高官に、位階・官職・勲功に応じて、封戸を与えています。これには他に寺に寺封を与えています。この与えられた封戸の実態とその運用を具体的に考えてみます。



※ 感染症予防にご協力をおねがいたします ※

☆☆☆ 事前の申し込みは要りません。どなたでも参加できます ☆☆☆